

平成 31 年 新春懇談会

年 頭 に あ た り

「猪突猛進」

平成 31 年1月 8 日

礼文町長 小 野 徹

あらためて、明けましておめでとうございます。

輝かしい平成最後の年、平成 31 年の新春を皆さんとともに迎えることができましたこと、心からお慶びを申し上げます。

また、本日は、新年早々の何かとお忙しいところ、新春懇談会にご出席を賜り、厚くお礼申し上げますとともに、皆様には、日ごろから町政の推進にあたり、格別なるご理解とご支援ご協力をいただいておりますことにあらためて心から厚くお礼を申し上げます。

さて、本年も年の始まりにあたり、新春懇談会の席上で、本町の表彰条例に基づく「功労者表彰式」を行わせていただきました。本日受賞された岩城清隆様は、多年にわたりスコトン地区の自治会長を務められ地方自治の進展に大きく貢献されました。また、下山真司様、黒川哲行様は、消防団員並びに水難救難所員として多年にわたり地域を火災や災害から守り、また、海難事故を防ぐなど、安心安全な地域づくりに献身的な貢献をされました。

さらに奥野由貴代様は、本町に貴重で多額の金品のご寄附を賜り、善行表彰を受けられたところであります。

表彰された皆さんは、ともに、ふるさと礼文町の発展を願って大きな夢の種をまかれ、郷土礼文町の発展のため献身的なご尽力を賜りました皆様でございます。新しい年の始まりにあたり、本町の発展に多大なご功績を賜りました皆様にあらためて衷心より敬意と感謝を表する次第であります。

どうぞ、これからも礼文町発展のため、変わらぬご支援を賜りますよう心からお願いを申し上げます。

さて、明るい希望をもって迎えた 2019 年、穏やかに明けた平成 31 年は、亥(いのしし)年であります。「猪突猛进」と云う言葉で表現されますように、とてもダイナミックな印象があるイノシシですが、実はとても繊細で鼻が利く動物だそうであります。今年も、皆さまの思いを敏感にキャッチしながら、大胆に、また、繊細さも兼ね備えながら町政を進めてまいりたいと考えておりますので、どうぞ、よろしくお願ひ申し上げます。

昨年 10 月、礼文町は「死亡交通事故死ゼロ 3 千日」という偉業を達成することができました。

8 年を超えるまさに金字塔であり、これも ^{ひとえ}偏に交通安全に関係する皆様をはじめ町民皆さまのご尽力の賜物であり、深く感謝するところでございます。 今日現在で「事故死ゼロ」は「3 千 99 日」をとなっております。 引き続き、交通安全への取組みに格別なるご理解ご協力を賜ります様、心からお願いを申し上げます。

また、最近は自然災害が相次いでおり、戦後最大の高潮被害となったあの「伊勢湾台風」も 60 年前の 1959 年の出来事でありました。 これまでは「50 年に一度」と云われてきた災害が、近年は、毎年のように発生し、私たちは自然災害に悩まされております。 年明け早々の 3 日夜にも、熊本で震度 6 弱の強い地震が発生しています。

町といたしましても、避難所やシェルター式避難路の計画的な整備に努め、万事怠りなく、注意深く進めて、礼文町にとっても災害のない良い年にしたいと考えておりますので、ご理解をいただきたいと思っております。

さて、政府は、昨年12月に「平成24年12月から始まった今の景気回復が、昨年の暮れで6年1カ月となり、平成14年2月から平成20年2月までの6年1カ月続いた戦後最長の「いざなみ景気」に並んだとして、このまま年を越し、景気回復が進むと、戦後最長の景気回復を更新していくと公表しました。

中国の景気減速やアメリカと中国の貿易摩擦、それにヨーロッパではイギリスのEU離脱問題などの混乱で株価の下落が懸念されており、国内においても、低く緩やかな成長で給料の上りが少なく、景気回復の実感が少ないと感じられる方も多いかも知れませんが、私は、いよいよ、景気回復が実感できるという大きな期待と希望を持って新年を迎えたところでございます。浜に目をやると、今年は初漁から、夕ラ漁が大漁、アカガレイも船に積みきれないほどの豊漁とうかがって嬉しく思っております。

私は、活みなぎる浜の賑わいが、これからも続いていくことに大きな期待をしているとともに、観光客でにぎわう夏の礼文島を夢見ているところでございます。

また、消費税率が今年 10 月から 10%に引き上げられることとなりますが、国は、消費税増税に備えた様々な対策を行うということから、国の当初予算案としては、防災、減災、国土強靱化対策というインフラ整備に多くの予算が措置され、101 兆 4 千 564 億円と初めて 100 兆円を超える極めて大きな予算案となっています。

わが町にとっても、地方創生総合戦略策定委員の皆様と一緒に策定した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が最終年となり、戦略をひとつひとつ着実に、また大胆に進めて、今だけでない、未来の礼文町にバトンをつないでいかなければなりません。いつも申し上げておりますように、本町発展の大きな柱は、やはり、礼文町の基幹産業である「漁業」と「観光」を振興させることであり、「商工業」とともに本町経済の基盤を安定させ、働く場を増やし、元気なまちにすることではありますが、これからは「交流人口」や「関係人口」と呼ばれる観光客の皆さんや礼文島ファンを増やすこと、特に海外からのお客様、インバウンドへの受入体制を整備しなければならないと考えております。

さらに、礼文の海の幸に付加価値をつけると同時に、礼文島での海の幸の地場消費を進めて、島の外からの外貨を稼ぎ、「人口減少によって縮小したわが町の経済の循環を拡大させる」必要があります。

昨日の仕事始めでも、職員には、このことが「地方創生」のめざすところであり、人口減少によって縮小したわが町の経済の循環を拡大させることを一番に考えて具体的な取組みを進めるようにと訓示をしたところでもありますので皆様のご支援もお願い申し上げる次第であります。

また、総合戦略は、「島に安定した雇用を創り上げること」や「島に新しい人の流れをつくること」など四つの目標がありますが、それ以上に、自然豊かな礼文島を愛し、ウニやコンブに代表される礼文の漁業を愛し、礼文島に住む家族を愛する … という礼文島のふるさとを愛する素晴らしい教育、「礼文学」をさらに進めて、子供たちを^{たくま}逞しく^{すこ}健やかに育てることが重要であると考えています。

特に、その中心となる礼文高校の魅力化プロジェクトは極めて重要な取組であると考えており、全国から礼文高校に生徒を公募する体制づくりを進めなければなりません。

それが、これからも「礼文島に暮らす人々が幸せを感じ、将来にわたって住み続けたいと思えるまちづくり」を進める上で大事なことだと思っているからでございます。

以上、礼文町が、^{たくま}逞しい活力と自信に満ちた町として、すべての町民の皆さんとともに感動あるまちづくりができるよう、全身全霊を傾けて邁進することを、ここに私の新年の決意とするものであり、あらためて、町議会議員各位並びに町民皆さんの尚一層のご理解とご支援ご協力をお願い申し上げます。

結びに、皆様にとりまして、また、本町にとりましても、今年一年が素晴らしい年となりますよう心からご祈念申し上げ年頭のご挨拶といたします。 本年もよろしくお願い致します。